

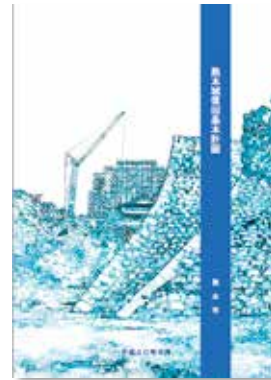
熊本城 復興に向けて

〈18〉熊本城復旧基本計画の策定

熊本城は、壮大な石垣や防衛上の構造がほぼそのまま、城郭の雰囲気の色濃く伝え、昭和35年に復興された大小天守も合わせて国内屈指の人気を誇っていました。しかし平成28年熊本地震により、特別史跡熊本城跡としての文化財並びに熊本城公園としての都市公園の両面から、全域的に甚大な被害を受けました。たくさんの人々の思いが詰まった熊本城です。壊れた石垣や建造物を元に戻し、震災の記憶とともに次代へつないでいく必要があります。

熊本城の復旧には、長い歳月と多大な費用に加え、高い専門知識・技術・マンパワーを要することから、国・県や関係団体との連携はもとより、熊本城復旧を願う多くの皆さんの力を結集して取り組んでいく必要があります。また、文化財的価値の保全を基本としつつ、文化財・都市公園が調和した重要な観光資源としての早期再生を図るため、効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を進めることも重要です。さらに、石垣と建造物の復旧にあたっては、被災原因の究明、石垣と建造物の関係性の検証と安全な状態で復旧するための工法の検討などの調査・研究を先行して進めることも不可欠です。

このような課題を整理し熊本城の復旧を着実に進めていくために、熊本城復旧基本計画（以下、復旧基本計画）を本年3月に策定しました。平成28年12月に定めた「熊本城復旧基本方針」に基づいており、石垣・建造物などをはじめ、熊本城全体の復旧手順、耐震化などの工法の検討、復旧過程の公開および継続的な復旧を支える体制づくりなど、復旧に係る具体的な方針や施策および取り組みを体系的に定めています。復旧の期間は20年としました。基本方針に基づく施策と具体的な取り組みは以下の通りです。



▲復旧工事が進む天守

1. 被災した石垣・建造物等の保全
2. 復興のシンボル天守閣の早期復旧
3. 石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧
4. 復旧過程の段階的公開と活用
5. 最新技術も活用した安全対策の検討
6. 100年先を見据えた復元への礎づくり
7. 復旧基本計画の推進

復旧基本計画作成に当たっては、皆さんの意見をお聞きする機会を幾度か設けて反映しました。この復旧基本計画を基に、今後、100年先の熊本城の復元整備された姿を見据えながら復旧に取り組み、今回の震災の記憶を次世代に確実に語り継いでいきます。なお、復旧基本計画は市ホームページに掲載しており、市内の図書館などでも閲覧できます。ぜひご覧ください。

（熊本城調査研究センター 金田 一精）